

選定方法見直し後の基準別該当湿地案(国際基準3・ヒアリング結果)

分類群	湿地名	都道府県	選定理由
植物	猿払原野湖沼群	北海道	北海道の腐食栄養湖沼の水生植物相の典型
	根室湿原群(南部沼、オンネ沼、長節沼等)	北海道	ネムロコウホネ、沈水性ヒルムシロ属等水草の種の多様性が高く、道東本来の湖沼の水生植物相が残る
	十勝川水系河跡湖群及び十勝海岸湖沼群	北海道	河跡湖が多数残り、河跡湖に特有な水生植物の種の多様性が高い。河口域に隣接する湖沼群も自然性が高く、これらを含めて指定することが望ましい。
	八幡平湖沼群	岩手県	貧栄養水域性の水生植物や周極要素の水生植物が隔離分布する場として重要
	渡良瀬遊水池	茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県	トネハナヤスリ、タチスミレ等の環境省レッドリスト掲載種約50種を含む700種以上の豊富な植物種が育成する湿地で、関東地方における低湿地の代表例
	東海丘陵湧水湿地群(矢並湿地等)	愛知県、岐阜県、三重県等	第三紀周北要素、ゴンドワナ大陸起源、東海地方で適応進化固有種を含む東海丘陵要素植物が育成する代表的な湿地
	能登半島ため池群	石川県	水生植物の種の多様性が高い
	中池見湿地	福井県	オオアカウキクサ、サンショウモ等の水田耕作と結びついた多くの希少な水生植物が生育している。攪乱依存種のみでなく湧水に育成する湿性植物が混在し、植物の種の多様性が高い
	円山川下流域	兵庫県	河川の氾濫原に依存したミズアオイ等の水草相が良好な状態に残っている
	北播磨地域ため池群	兵庫県	ため池を中心に良好な良好な水生植物群落が成立。絶滅危惧種も多くの池に生育している。
	世羅台地の湧水湿地・ため池群	広島県	水辺や水中に絶滅危惧種を含む多様な植生が成立。植物地理的にも隔離分布する特異な植物相が見られる。
	家田・川坂湿原	宮崎県	オヒルムシロ等の北方系の水生植物の南限。湧水環境が豊富な植物相を支えている。
海藻	知床半島東部沿岸 ※知床半島全域	北海道	種の多様性が高い。コンブ、その他海藻は暖寒両系から成り、生態的景観に優れる。
	厚岸湾	北海道	種の多様性、規模ともに最大。海洋条件の異なる場所に応じた各種コンブ目が豊富に生育し、生態的景観に極めて優れる。寒流系コンブ類の多様性が見られる典型的な海域。
	志津川湾	宮城県	寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場として貴重である。アラメ群落の北限に近い。
	伊豆半島南東部(白浜～田牛)沿岸	静岡県下田市	大規模な海中林。コンブ目やホンダワラ科主体の海藻群落。マメタワラ、アラメ、カジメなどが生育。
	志摩半島南部沿岸(大王町～南島)	三重県	サガラメ、カジメ、オオバノコギリモクなどの海中林。ナガシマモク、ヘラナラサモも生息。最大規模のネジモク群落。マクサも生息。1年生アマモ、ツルモも見られる。
	隠岐島周辺沿岸	島根県	ガラモ場、海中林を中心とした大規模な藻場で種多様性が高く、希少種も多い。クロキツタ(国の天然記念物)やホソエガサ(絶滅危惧種)の生育地。地域住民の海への関心も高い。
	宇和島島嶼部周辺沿岸	愛媛県	瀬戸内海側と太平洋側の海洋変動を受けやすい。多様なホンダワラ類が混成している。クロメ場、ガラモ場などと混在し、地先の生物多様性が高い。
	筑前大島・地ノ島周辺沿岸	福岡県	玄界灘には各地で大規模な藻場が見られるが、最大規模の海中林。
	ハシネ 甌島周辺沿岸(海鼠池、貝池を含む)	鹿児島県	海鼠池は陸封された海水湖として希少性が高い。マメタワラ類似種が生育するとされる。
	中城湾	沖縄県	泡瀬干潟にはクビレミドロ(絶滅危惧種)が生育。イソスギナも生育。
	カビラ 川平湾、米原地先沿岸	沖縄県	ホンダワラ属、シマテンゲサ、カタメンキリンサイ、リュウキュウオゴノリ(絶滅危惧種)の生育地。
	ナガラ 名蔵湾および名蔵川集水域	沖縄県	マングローブ、干潟、海草藻場、海藻藻場、サンゴ礁リーフの全てが見られ、かつ連続する「熱帯性湿地」として日本で唯一。この規模として最も高緯度。海藻群落は熱帯性海藻で構成されており、沖縄本島とも異なる。リュウキュウオゴノリ(絶滅危惧種)も生育。海草のウミシヨウブも生育。
	サロマ湖	北海道	日本最大の潟湖性アマモ場。広大なアマモ群落。
	能取湖	北海道	スゲアマモの広大な藻場で、分布は湖内の西岸。スゲアマモの単純群落では国内最大、その他、アマモ、コアマモの群落がある。
	厚岸湾	北海道	大黒島、小島(外海域)アイニンカップ岬の周辺海域およびアイカップ岬の沿岸域。国内最大のオオアマモの単純群落が見られる唯一の場所。スガモ、アマモも生育する。既にラムサール条約湿地に登録されている厚岸湖と生態系が連続的につながる。

海藻	陸中リアス海岸の湾奥沿岸湿地群(宮古湾、山田湾、船越湾、大槌湾、釜石湾など)	岩手県	世界一長いタチアマモ、南限と思われるオオアマモが分布。
	七尾湾	石川県	日本海内湾の大規模アマモ場(日本海では数少ない内湾性環境)。スゲアマモの分布最南端(アマモ・スゲアマモ)。ウミヒルモの分布北限。
	東京湾の干潟・浅瀬(富津干潟)	千葉県	富津地先沿岸は東京湾最大のアマモ場(アマモ・コアマモ)。長期変動に関する知見多数あり。
	浜名湖	静岡県	1年生アマモ場と多年生アマモ場が共存する貴重な湿地。本州太平洋岸中部の潟性湖アマモ場の典型。
	安芸湾三津口	広島県	瀬戸内海でも非常に自然度が高く残存したアマモ場。特に生野島月ヶ浦のアマモ場は小さいながらも健全性が高い。
	鹿児島湾(桜島漁港・浜町・鴨池港・生見のアマモ場群落、重富海岸、天降川河口、喜入町メヒルギ林湿地、岩崎川、鈴川、米倉川など)	鹿児島県	南限のアマモ場。1年生で変動が激しいため、広域での指定が必要。
	西表島南西部海域および河口域(崎山湾など)	沖縄県	自然度の非常に高い熱帯性海草藻場。ウミシヨウブの純群落。
マングロープ	種子島のマングロープ林(湊川)	鹿児島県	メヒルギ林が発達し生態系として貴重、自然分布北限の可能性有
	種子島のマングロープ林(大浦川)	鹿児島県	ラグーン内に樹高1mにも達しないメヒルギ群落が広く生育、このような群生は日本で唯一
	住用湾流入河川および河口部(城内海)	鹿児島県	マングロープ樹種の希少分布地。マングロープ林の地理的希少分布地。住用・役勝マングロープ林と一緒に含めて多様性の高い生態系
	住用湾流入河川および河口部(住用川)	鹿児島県	マングロープ樹種の希少分布地。マングロープ林生態系の多様性が高い。発達したメヒルギ林と良好なるマングロープ生態系
	住用湾流入河川および河口部(役勝川)	鹿児島県	メヒルギ、オヒルギ、サキシマスオウノキ、シマシラキの生育地。マングロープ樹種の希少分布地。発達したメヒルギ林があり、マングロープ林生態系の多様性が高い。
	東村の慶佐次マングロープと流入河川	沖縄県	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギの生育地。マングロープ樹種の希少分布地。マングロープ林の地理的希少分布地。マングロープ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングロープ林生態系の多様性が高い。
	仲間川	沖縄県	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングロープ樹種の希少分布地。マングロープ林の地理的希少分布地。マングロープ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングロープ林生態系の多様性が高い。
	浦内川	沖縄県	マングロープ樹種の希少分布地。マングロープ林の地理的希少分布地。マングロープ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。干潟、マングロープ林、湿地、海岸から陸上生態系へと多様性が高い。更に河川生態系、奥地森林生態系と多様性が特に高い
両生・爬虫類	ヤンバルの渓流域	沖縄県	ナミエガエル、ハナサキガエル、イシカワガエル、ホルストガエル等の日本固有種を含む両生は虫類にとって重要な生息地
	於茂登岳の溪流・湿地	沖縄県	コガタハナサキガエル、オオハナサキガエル等の日本固有種を含む両生は虫類にとって重要な生息地
魚類	父島・母島の河川	東京都	オガサワラヨシノボリの主要産地。オガサワラカワニナ、オガサワラヌマエビ等固有種が生息。
	円山川河口域	兵庫県	異なる系統(サケ、イトヨ、メダカ南北集団等)からなる多様な魚類相。
	筑後川(感潮域)	福岡県	アリアケシラウオ、アリアケヒメシラウオ、エツ、ヤマノカミの繁殖地。
	有明海周辺	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県	エツ、アリアケヒメシラウオ、ムツゴロウ、タビラクチ、ワラスボ、ヤマノカミなど大陸性魚類の生息地。
	住用川 ※役勝川も含む	鹿児島県	キバラヨシノボリ、リュウキュウアユの生息地。河口域にはマングロープ林が広がり、希少ハゼ科魚類も生息。
	ヤンバル河川群 ※数久田川、源河川、汀間川、大浦川など	沖縄県	キバラヨシノボリ、アオバラヨシノボリ、アヤヨシノボリ、ヒラヨシノボリなどヨシノボリ類固有種が生息。汀間川、大浦川河口のマングロープ林には、多様な魚類が生息。
	西表島の河川 ※浦内川、大見謝川、仲間川など	沖縄県	西表島の河川からは400種をこえる魚類が確認されており、種多様性がきわめて高い。また、絶滅のおそれのある汽水・淡水魚は51種が分布し、魚類相の希少性も高い。なかでも浦内川は魚種数、絶滅危惧種数ともに最多。
昆虫類	屏風山湿原地沼群	青森県	ゲンゴロウ類を始めとした水生甲虫の希少種が集中分布している
	八幡平周辺湿原群	岩手県、秋田県	冷涼な気候の影響を受け、日本では唯一アラスカやカムチャツカ等に生息するオオメズムシが生息する他、チシマズムシ等の北方系の昆虫が生息する。
	対馬・浅茅湾	長崎県	入り江が複雑に発達しており、特異な景観を有している。絶滅危惧Ⅰ類の沿岸性アメンボの一種であるシオアメンボや絶滅危惧Ⅱ類のシロウミアメンボの安定した生息地。オス・メス同型のヒマイトトンボも生息。
	対馬・田ノ浜	長崎県	地形が急峻で平地の少ない対馬において低湿地の生物相を残す場として重要で、エサキアメンボ等の水生昆虫やツシマアカガエル、チョウセンヤマアカガエル等が生息し、ツシマヤマネコの重要な餌場にもなっている。
	奄美大島の河川	鹿児島県	エグリタマズムシ等の固有の水棲昆虫が多いだけでなく、アマミハナサキガエル、イシカワガエル等の固有な両生は虫類も多種が生息している。中流域・下流域まで含めて重要。
	西表の河川	沖縄県	八重山諸島固有の水棲昆虫類が豊富に生息している。溪流性および湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である。

底生動物	サロマ湖	北海道	エゾタマキビ、キタノオオノガイなど寒流系のベントスが生息する他、重要な漁業資源であるホッカイベビがアマモ場に多数生息する。
	能取湖	北海道	ベントス相が豊富であり、エゾタマキビ、オオノガイ、ソトリガイが多産する他、多毛類の多様性が高い。
	根室湾・温根沼	北海道	キタユムシ、アナジャコ、キタイソメが豊富に見られ、ベントスの多様性が高い。また、潮間帯にウバガイが多産する。
	万石浦	宮城県	岸辺に植生帯は少ないものの、干潟に多くのベントスが生息し、ウミニナ、カワアイ、ツツカワザンショウなどの他スジホシムシも比較的多く見られる。通水路に近いアサリ漁場での多様性が高い。
	松島湾	宮城県	内湾の多島海で様々なタイプの干潟が散在する。関東以北ではここにだけイボウミナが生息し、クビキレガイモドキも数カ所で確認された。全体として多様性が高い。
	松川浦	福島県	仙台湾沿岸域では最も多様性が高い。カワアイ、ヨシダカワザンショウ等の他、未記載種のマツカワウラカワザンショウが多産する。他では少なくなったユムシ、スジホシムシ、ツバサゴカイが生息する
	小櫃川河口・盤洲干潟	千葉県	東京湾がかつてもっていた強内湾系の干潟環境を今に残す唯一の地域であり、ここを分布の北限とする干潟生物も多い点で、その存在意義は大きい。東京湾内では最も多くのベントスが生息しており、自然環境も比較的良く保存されている。クシテガニ、ウモレベンケイガニなど十脚類の多様性も高い。
	汐川干潟	愛知県	ヒロクチカノコ、イボウミナ、カワアイ、オカミミガイなどが生息する多様性の高い干潟で、ベントスの密度も高い。モニ1000干潟調査でも出現種数は多い。
	櫛田川河口	三重県	海浜域の砂浜、前浜干潟から、潟湖干潟、河口干潟とすべての干潟地形がセットになって存在する点で価値が高い。多様な生息環境が保持されており、伊勢湾内では最も多様性が高い。イボウミナ、オカミミガイなどが見られる他、ヒロクチカノコやワカウラツボの報告もある。超貴重種であるクマノエミオスジガニが記録される点も貴重である。
	吉野川河口	徳島県	有明海が備え持つ強内湾系の大型干潟の特徴を、河口干潟の形態でもっており、そのため、シオマネキの生息数は、有明海以外では随一を誇る。砂質から泥質まで多様な環境が河口域に残されており、ヒロクチカノコ、イボウミナ、ヨシダカワザンショウ、クリイロコミミガイ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、フタバピンノ等が生息する。種数も多い。
	秋穂湾・山口湾	山口県	有明海に次いで、潮の干満差が大きい周防灘一帯の沿岸域で、有明海と同様の多様な強内湾系生物を多産する貴重な地域である。しかも低潮線付近には広大なアマモ場を擁し、塩性湿地も豊富であり、瀬戸内海の原因風景を残す点で存在価値が高い。瀬戸内海を含め近隣海域の中では圧倒的に生息種数が多い。シマヘナタリ、オカミミガイ類、センペイアワモチ等の他、ミドリシャミセンガイ、ヒガシナメクジウオも見られる。
	中津干潟	大分県	シマヘナタリ、クロヘナタリ、ハクセンシオマネキ、オカミミガイ類等が生息する、多様性の高い干潟。固有種の多さでも無視できない。塩性湿地からアマモ場まで連続性がある。
	福岡湾（和白干潟・今津干潟）	福岡県	日本海に面した干潟では最も多様性が高い。出現種数はそれほど多くはないが、ナラビオカミミガイ、キヌカツギハマシノミガイが生息する。
	筑後川・沖端川河口	福岡県	多様なベントスが生息し、大陸遺存種も多く見られる。ミドリシャミセンガイ、ムツゴロウ、オカミミガイ類、アリアケガニ、アリアケカワゴカイ等が生息する。
	六角川河口	佐賀県	有明海最奥部に位置する。アリアケガニ、ムツゴロウ、ヒロクチカノコ、オカミミガイ類、ウミマイマイ、クロヘナタリ、シマヘナタリ等が生息し、多様性が高い。
	永浦	熊本県	多様な環境が存在し、近隣地域の中では出現種数が多い。ハクセンシオマネキの日本最大の生息地。
	羊角湾	熊本県	羊角湾埋立計画が中止になったため、自然度が高い状態で保持されており、オカミミガイ類、ヘナタリ類、イボウミナ等、出現種数も多い。
	不知火干潟・大野川	熊本県	大野川の河口にはヨシ原も存在し、ヘナタリ類、ワカウラツボ、ウミマイマイ、ヤベカワモチ、シオマネキが生息する他、有明海特産種も出現し、多様性が高い。
	屋我地（羽地内海を含む）	沖縄県	大規模な内湾で、ベントス相も多様で豊富である。特に二枚貝類は種数、個体数ともに多く、腹足類には未記載種も多く出現する。
	中城湾（泡瀬・佐敷）	沖縄県	泡瀬干潟は貝類の種数や現存量が大きく、多くの希少な種類が見られる。
	宮良湾	沖縄県	前浜干潟の他、河口部には天延記念物のマングローブ林が存在する。オキナワアナジャコ、キバアマガイ、オカミミガイ類など多種が生息する。
	川平湾	沖縄県	サンゴ礁から岩礁海岸、砂浜、砂泥底、海草藻場、マングローブと多様な環境が揃っている、多様性の高い地域。ナタメケボリやヒノマルズキンなど埋生生物と共生するベントスも確認された。
	浦内川河口	沖縄県	広大な河口域にマングローブ林が存在し、魚類の種多様性が高い。トウドウマリハマグリ、キヌメハマシノミ、コハクオカミミガイ等が産する。
	後良川・相良川・前良川河口	沖縄県	マングローブ湿地と河口から前浜に至る広大な干潟では、特に、シオマネキ類やオサガニ類の多様性が高い。
	船浦湾	沖縄県	マングローブ林、砂質干潟、海草藻場がいずれも広大で、それぞれに特有のベントスが出現する、多様性の高い地域。